

第56回評価監視委員会の開催について

第56回 一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日時	平成30年10月22日(月)15:00～17:00	
開催場所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
出席委員 (五十音順)	大山 修(株式会社 Tomorrow's Business Creation 代表取締役 公認会計士) 白戸 智(株式会社 三菱総合研究所 地域創生事業本部 地域産業戦略グループ 主席研究員) 寺川 祐一(委員長(医療用医薬品製造販売業公正取引協議会 専務理事)) 真島 審一(元 会計検査院 第5局長) 宮本 和明(パシフィックコンサルタンツ株式会社 社会マネジメント本部 技術顧問)	
	建築調査部 加納 慎二、島田 理久、辻野 晃成、高梨 卓司、亀谷 俊徳、萩生田 修 調査統括部 鈴木 昌樹、古井戸 宏、菊池 信博 監査審査室 後藤 裕、勝井 治	
審議案件	案 件	備 考
	(定期調査) 建物用耐火性硬質ポリ塩化ビニル管・継手	「建設物価」平成30年8月号655ページ掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
	(受託調査) ピンコロ石 90×90×90 グレー	受託調査について、調査票、調査報告書等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
委員からの主な意見・質問、それに対する調査会からの回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘(不適切な点又は改善すべき点)	なし	

意見・質問	説明・回答
<p>1. 定期調査について 建物用耐火性硬質ポリ塩化ビニル管・継手</p> <p>○ 性能がかなり良い製品にもかかわらず、普及に時間を要している要因は何か。</p> <p>○ 新規参入メーカーの登場により、市場価格の変動はあったのか。</p> <p>○ メーカー2社の製品について、価格差はほとんどないのか。</p> <p>○ 「防露性」とはどういう意味か。</p> <p>○ 取引数量の「80万～100万円」とは標準的な取引数量か。</p> <p>○ 性能が異なることで価格差が生じる製品は月刊「建設物価」にどのように掲載するのか。</p> <p>○ 調査対象者は「製品の取扱量が多い・少ない」といった情報を踏まえて選定された調査対象者か。</p> <p>○ 新規掲載希望は年に何回か定期的に募集するのか、それとも随時募集しているのか。</p> <p>○ 耐火二層管と建物用耐火性硬質ポリ塩化ビニル管を比較すると、どちらの流通量が多いのか。</p> <p>○ 耐火二層管と建物用耐火性硬質ポリ塩化ビニル管を比較すると、どちらが割高か。</p>	<p>○ 設計者や施工を担当する職人が使い慣れている耐火二層管や、排水用塩ビライニング鋼管といった従来品を採用しがちであることが主な要因である。</p> <p>○ 市場価格の変動はない。</p> <p>○ 調査時点ではない。</p> <p>○ 「露が付かない」との意味である。</p> <p>○ 標準的な取引数量である。</p> <p>○ メーカー名を付したブランド品として掲載している。</p> <p>○ 「製品の取扱量が多い・少ない」といった情報を踏まえて選定した調査対象者である。</p> <p>○ 新規掲載希望は募集ではなく随時受け付けている。</p> <p>○ 現状はまだ耐火二層管の流通量が多い。</p> <p>○ 材工共では耐火二層管の方が費用がかかる。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について ピンコロ石 90×90×90 グレー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ピンコロ石を含め、石材は産地によって規格、強度、品質のバラツキは生じないのか。 ○ 価格に占める輸送費の割合が高い資材かと思うが、輸送費の調査は難しいのか。 ○ 輸送費を考えると、現場までの輸送距離が短いメーカーが、競争力という点では有利か。 ○ メーカーは在庫を保有しているのか。 ○ 石材の調査は材工共の調査が一般的ではないのか。 ○ 石材業者は中国からの輸入に際して、日本の商社を経由しないのか。 ○ 国内産ピンコロ石についての生産量は、把握しているか。 ○ 石材舗装工事は汎用性のある工事か。 ○ ピンコロ石は月刊「建設物価」の定期調査対象ではないのか。 ○ 「ピンコロ石」の一般的な寸法はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産地は中国産が多い。本調査においては「グレーのピンコロ石であれば良い」との発注者要求事項に基づき、価格調査を実施した。 ○ 輸送費込みの現場持込価格を調査報告している。 ○ 中国の港から定期便を利用して、博多港や門司港に海上輸送された後、現場に搬入されるため、現場に近いメーカーが有利というわけではない。 ○ 若干の在庫はあるが、注文が入る都度、仕入れをするメーカーが多い。 ○ 発注者が歩掛を保有していれば、材工共の調査依頼はない。 ○ 石材業者が商社を兼ねる業態である。また、中国の山元も日本語に堪能であり、日本語が通じる方も多い。 ○ 中国産が圧倒的に多く流通している。 ○ 汎用性のある工事ではない。 ○ 定期調査の対象ではない。 ○ 9cm角か10cm角が一般的な寸法である。
<p>3. 次回開催日について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次回評価監視委員会は、平成31年2月中旬から下旬に開催予定。 	